

＜白金標準先物、強気相場は悲観の中で生まれる＞



(出所：オアシス)

白金標準先物は、8月に入り6日間連続で陰線を続けながら、先週末には雇用統計を受けた金標準先物の下落に追随しながら一時12月21日以来の3468円まで下落している。

特に中国政府の教育関連企業に対する規制強化や自動車半導体企業への価格操作の疑い、またトヨタ自動車は半導体不足を理由に中国合弁企業の一汽トヨタと広汽トヨタの一部の生産ライン停止を発表している。特に中国でも新型コロナ・ウイルスのデルタ株の感染拡大が勢いを増しており、中国の7月の貿易統計では輸出が前年同月比で19.3%増となったが、6月の32.2%から大きく低下しており、世界的な感染拡大が中国経済にも悪影響を与えている。そのため中国要因とテーパリングの要因が重なり下値追いを続けている。

ただ価格水準は、昨年12月20日以来の3500円割れを試すなど、行き過ぎた水準である事から格言で示す「強気相場は悲観の中で生まれ・・・」となる水準に近付いている様にも思える。

(2021年8月8日記載)

＜テクニカル＞

白金標準先物の日足をMACDで見た場合は、MACDとシグナルが下げ続けており、強気に変化する気配は見せていない。またMACDとシグナルの乖離を示すヒストグラムでも弱気の乖離を拡大させている。ただ日足と移動平均線の関係は、日足が200日移動平均線を下回り乖離幅も拡大しており、自律反発の値動きにも注意が必要である。

NYMEX 指定倉庫在庫 (トロイオンス) : 575520 (前週比-8442)

世界プラチナ ETF 残高 (トン) : 75.02 (前週比-0.05)